

令和7年度 第1回 森林・林業を知る見学会を開催しました



- 日 時：令和7年10月8日（水）
- 目的地：KUNOHE（九戸）木工女子部の活動と木工製作体験
滴生舎（浄法寺漆器制作工房見学と漆つや出し体験）
- 参加者：21名

☆KUNOHE（九戸）木工女子部☆

九戸村で活動する「KUNOHE木工女子部」を訪問。令和3年度から地域おこし協力隊として活動していたリーダーの上野さんら女性3名で活動してます。放置林の整備のため、木を間引きしながら森を育てる「環境保全型林業」、市場価値のない木を名札やえんぴつ、つまきなど製品化して価値をつける「未利用材活用事業」などを行っているとの説明を受けました。自伐型林業の魅力は、「ここには整備されていない森がある。その森を残しながら整備したいという思いがあった。」と上野さんは話していました。



活動についての講演



リーダーの上野さん



木のストラップづくり



活動している古民家

☆滴生舎（漆器工房）☆

二戸市浄法寺町の漆器工房「滴生舎」で漆について学習。塗師の馬場さんより説明をいただきました。

漆の木1本から採れる漆は200ccだけ。「漆かき」は6～10月にかけて行い、採り終えた木は伐採し、15年後に向け子孫を増やしています。漆器は漆を6～7回塗り重ね、長く使える丈夫な製品を約3か月かけて作ります。漆の実（種）からは蠟も作っています。

また、日本で使われる漆のほとんどが安い中国産が多くなってきたが、日本産の浄法寺の漆（漆器）を代々伝えたいという気持ちが大きい、と話されていました。

その後、参加者は漆ストラップのつや出し体験も行い、使えば使うほどに艶が増していく浄法寺の漆器について、ストラップを磨いて疑似体験しました。



馬場さんの説明



浄法寺漆について学ぶ



工房での作業の様子



漆つや出し体験